

年度が変わり、卯月四月になりました。

日本では国家予算をはじめとして、多くが四月が年度はじめです。大学では1日に早々と入学式を行ったところもあるでしょう。中高では6日の始業や入学式が多いかもしれません。ピカピカの新入生を迎え、生徒も教員も新しい環境に胸ふくらませる季節でもあります。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】 最新活動報告

3月の活動を報告します。

【 2 】 イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

【 3 】 授業のヒント

【 1 】 最新活動報告

3月に行われたイベントと部会の様子を報告します。

■ 年次大会を開催しました。

日時：2015年3月28日（土）

場所：日本大学経済学部（7号館2階講堂）

テーマ：法教育と経済教育の対話④一年金問題をどう教えるかー

参加者：56名

主な内容：

(1) 主催者挨拶の後、中川雅之先生（日本大学）から問題解題と提起が行われました。

中川先生は、社会保障特に年金に関しては関心と不安を多くの人々がもっている。そのための教育は重要だが、現在の制度が持続可能であるという前提で教育をすることに対して疑問を提示された。社会保障問題は、政策選択なのに現在の制度を肯定するような教育を次の世代に押し付けることになり、本来的な政策選択を阻害する者になりかねないと指摘をされました。

(2) 小黒一正先生（法政大学）は、年金制度の積立方式が不可能ではないという点に焦点をあてて、問題提起をされました。

積み立て方式を修正する事前積立方式もあるがそれも世代間格差を解消できず、完全積み立て方式が最も魅力的。しかし、現在の賦課方式から積み立て方式にするには

「二重の負担論」と呼ばれる難問がある。しかし、それは解決不可能なものではない。現行制度のマイナー・チューニングで年金の世代間格差は改善可能であり、国債発行をすることなく、暗黙の債務を長い時間をかけて償却することで、実質的に積立方式に移行可能である。積み立て方式の弱点と言われる問題に対しても、解決可能な政策はあり、それらを考慮にいたした教育が必要というものでした。

(3) 菊地馨実先生（早稲田大学）は、年金を含む社会保障に関する概論と法学者から問題をどうとらえるかと言う視点から問題提起をされました。

この問題を考えるには、歴史的な変遷を踏まえた議論が必要であり、さらに制度全体への視点、横断的な視点、税との関連への目配りも必要であり、社会的合意をいかにつくるかの視点も必要である。それらを総合的に考えてゆく必要がある。また、憲法 25 条の生存権との整合が問題となり、生存権の問題は、年金制度のなかで対応するのか、全体としての社会保障制度のなかで対応するのかが問題となっている。教育的には社会保険の意味の理解が大事で、社会保険の社会性と保険性という二重の性格をしっかりと考えさせたい。財源問題では、社会保険方式がいいのか税方式がよいのかの議論があるが、社会保険は参加者がいて保険料を払っている人たちによる運営への参加がその特徴で、その点が税は違う。社会保障の教育では、選挙権 18 歳を契機として若者の政治参加をもっと進めることが肝心であるというものでした。

(4) 現場からは、杉田孝之先生（千葉津田沼高）と奥田修一郎先生（大阪狭山南中）から授業の実際を含めた問題提起がおこなわれました。

杉田先生は、長年この問題に関心をもって実践しているが、様々な資料や見解がださされていて現場教員としては、本当はどうなのかが知りたいと強調されました。奥田先生は、生徒にとって社会保障の授業は、必ずしも関心が高いものではなく、それを分かったところまで持ってゆくためには方法も含めて教材開発が必要ということで、「アリとキリギリス」などの自作の教材を紹介しながら現場の実態を説明されました。

(5) パネルディスカッションでは、小黒先生、菊地先生からの補説と、フロアからの意見なども含めて、経済学の知見と法学の知見の違い、さらには政治的な決定プロセスの問題、現場と専門家との距離の問題などが熱心に話し合われました。社会保障の問題は、労働問題と並んで経済学者の見解と法学者の見解が分かれる部分が多くあり、それを教育の現場でどのように生徒に伝えてゆくか、専門家と現場教師の情報交換、共同作業をこれからも続けてゆくことを確認して会が終了しました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/symposium/20150328symposium.repot.pdf>

■東京部会（No. 73）を開催しました。

日時：2015年3月10日（火） 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部、参加者 10 名

主な内容は以下の通りです。

(1) 夏休み「先生のための経済教室」の内容構成の検討を行いました。

日程・会場等は、昨年とほぼ同様ですが、これまで以上にエコノミストと現場教員の懸け橋となるようなものを目指すことが確認されました。

今月末までには内容、講師の確定を目指すことになりました。

(2) 年次大会の内容の確認が中川先生、杉田先生からありました。

現場教師が知りたいとおもう事項、疑問におもっている内容を、エコノミストと法学者がどう説明するか、それを踏まえてどう若い生徒たちに教えるかという方向で進行してゆくことが確認されました。

(3) 川口ワークショップの総括が、大川先生（川口市立仲町中）から報告されました。

参加人数は 42 名。参加のきっかけでは知り合いからの呼びかけが三分の一。動機はテーマに興味を持てる内容だったが半数弱。内容の評価は、二つの講義とも大変参考になったが多数あった、とのことでした。今後は「模擬授業、時事問題を素材とした授業実践の紹介、法と経済に関するテーマ、社会保障、もっと平易なモノ」などの要望が上がるなど貴重な意見が寄せられました。

(4) 二つの新しい企画が提案され、承認されました。

ひとつは、「教材検討委員会」（東京）の発足。これは、現在京都で開催している地理教材作成の委員会を東京に拡大して、経済教育教材を作成して発信しようとするものです。

もう一つは、部会交流企画。東京、大阪、札幌など各部会へメンバーを相互に派遣して部会での教材開発を活性化することをねらいとするものです。

(5) 大倉先生（千葉松戸向陽高）から、「中学校でどうやって経済を教えるか（その全体像について）」が報告されました。これは、中学公民での経済授業の流れの全体像をどう構築するかを試案で、今後さらに検討することとなりました。

(6) 試験問題の検討では、新井が期末考査で行った中三生むけの試験問題と生徒の反応が紹介されました。生徒が忘れないだろうとした概念では、比較優位が多く上がり、株式、機会費用などの概念がそれに続いたとのことでした。

また、本年度の早稲田大学法学部の比較生産費説の入試問題が紹介され、高校教育の現場への悪影響を指摘する意見が多く寄せられました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo073report.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

これからのイベント、4月から5月にかけての部会（開催順）を紹介します。

■夏の経済教室のプログラムの概要が決まりました。

東京証券取引所との共催で続いている「先生のための夏の経済教室」。今年は8回目となります。そのプログラムの概要が決まりました。

*日程と会場

8月3, 4日（中高向け、名古屋会場、ウイंकあいち）

8月6, 7日（高中むけ、大阪会場、国民会館）

8月13, 14日（東京会場、高校向け、東証ホール）

8月17, 18日（東京会場、中学向け、東証ホール）です。

*主な内容と講師

講演：大竹文雄先生（東京高校）仮題「格差と教育」

講義：マクロ経済・ミクロ経済の講義、Basic講座、歴史シリーズ、教科書で教えるシリーズ、金融シリーズ、入試問題を使った経済授業など、これまで好評だった内容をブラッシュアップした講義を予定しています。講師はネットワークメンバーが担当します。なお、今年は、あらかじめ講師の先生に質問事項や話してもらいたい項目を提示して、それに答えてもらう形の講義の導入も企画中です。

実践報告：中学高校とも明日の授業に役立つものを提案します。昨年好評だった地理教材や、同じテーマでの複数の実践案の提示なども企画中です。

内容が最終的に確定した段階で、HPにアップの予定です。ご期待ください。

■名古屋部会（No. 1）を開催します

日時：2015年4月11日（土） 16時30分～18時30分

場所：金城学院大学サテライト

名古屋市中区錦三丁目15番15号 CTV錦ビル4階

（セントラルパーク地下街10A出口前）

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya001flyer.pdf>

■東京部会（No. 74）を開催します

日時：2015年4月16日（火） 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo074flyer.pdf>

■京都部会 (No. 29) を開催します

日時：2015年4月17日(金) 19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館4階第二共同研究室

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto029flyerR.pdf>

■札幌部会 (No. 13) を開催します

日時：2015年5月16日(土) 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンク セミナールーム

札幌市中央区北5条西5丁目7番地

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo013flyer.pdf>

【 3 】 授業のヒント

■絵本や童話の活用

経済はとっつきにくい。たしかにそうですが、食わず嫌いを直すには、やさしい絵本から授業のヒントを得るというのもお勧めの方法です。

経済の絵本で有名なのは『レモンをお金にかえる法』(河出書房新社)ですが、ほかにも『はじめまして! 10歳からの経済学』(ユマニテ)のシリーズなどもあります。これらは市場や景気、金融などずばり経済活動のある部分をストーリー仕立てにして、イラスト化したものです。

イソップやグリムなどの童話も経済に関連するものが結構あります。大阪の奥田先生が教材化している「アリとキリギリス」の話も最後の部分は国によって異なっているそうです。その結末をどうするかで、様々な展開が可能になります。比較優位でキリギリスが芸人になって、観客のアリを楽しませるという一発逆転話に持って行くことすらできるかもしれません。

絵本や童話の良さはそこから想像の羽を伸ばすことができる点です。『レモン』でもレモネード屋さんの企業経営での資金調達、決算での減価償却、株式会社化など、どんどんストーリーを展開できる可能性を持ちます。

ちなみに、この種の絵本はアメリカやイギリスで結構販売されています。アマゾンなどで economics picturebook children など検索して入手し、それをもとに自作のストーリーを作るのもよいかもしれません。(新井)

【 4 】 編集後記 (みみずのたはこと)

三月で教員生活第二ステージを終え、四月から第三ステージに入ります。そこで問題になったのは、第二ステージで集まってしまった本や書類の整理、というより処分。断捨離ということばがはやりましたが、決断は難しい。とはいえ、価値があると思っているのは本人だけということも大ありなので、市場価格に相当するようなシグナルとなるものが欲しいところです。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇